平成24年
4月1日号

子どもと未来の柏のために

放射線対策NEWS（ニュース）

NO.006

掲載情報は個別に記載したものを除き3月22日現在のものです

「柏市除染実施計画」を策定

市では、国と協議を続けてきた「柏市除染実施計画」について、3月15日付で策定しました。同計画に基づき、市における追加被ばく線量が年間で1ミリシーベルト未満の環境にすることを目指して、引き続き除染を進めていきます。

【計画の特徴】

- 除染は、国の「除染関係ガイドライン」に準拠するほか、市の独自基準として、子どもの生活環境となる小学校・保育園等は、地表5センチメートルにおける空間放射線量率についても毎時0.23マイクロシーベルト未満を目標に実施します
- 速やかに市内の空間放射線量率を低減するためには、市民の皆さんが日常生活で最も長く滞在する住居（民有地）とその周辺の除染については、市民1人1人、ボランティア、町会等の除染協力が欠かせないと考えます。そのための支援の強化を行います
- 子どもに関する施設については、国の特別措置法の支援対象外となる場合においても、市の独自の措置として実施します

除染や被ばく低減対策に関する費用については、特別措置法にもあるとおり、第一義的には国が財政措置をすることが当然と考えますが、同法に基づく国の財政措置には該当しないものであっても、東京電力に費用負担を求めるとともに、国に対してもさらなる支援の拡充を引き続き要請します。また、除去土壌等の処分場の確保についても、国が責任を持って対応するよう、引き続き強く要望します。

◎実施計画は、放射線対策室で配布しているほか、市のホームページで見ることができます

問放射線対策室☎7168－1036

空間放射線量測定器を貸し出し中

放射線対策室・沼南支所・各近隣センターで、計150台を配備して貸し出しています。事前に予約が必要です。施設ごとに予約状況が異なりますので、希望の施設へご連絡ください。

問放射線量測定コールセンター☎7168－1037

食品中の放射性物質の規格基準が新しくなります

東京電力福島第一原発事故を受けて、食品については、これまで国が安全性を確保する観点から暫定規制値を設定し、これを上回る放射性物質が検出された場合は、食品衛生法に基づき流通が規制されていました。

4月1日からは、より一層の食品の安全と安心を確保するために、新基準が設定され、適用されます。新基準は、食品中の放射性物質からの被ばく線量の基準を引き下げることを目的としており、基準値だけではなく、食品区分も変更されています。

◎詳しい内容は、市のホームページで見ることができます

問保健所生活衛生課☎7167－1259

■放射性セシウムの暫定規制値（3月31日まで）

食品群	規制値
飲料水	200
牛乳・乳製品	200
野菜類	500
穀類	500
肉・卵・魚・その他	500

■放射性セシウムの新基準値（4月1日から）

食品区分	基準値
飲料水	10
牛乳	50
乳児用食品	50
一般食品（上記以外）	100

※数値は放射性セシウム134と137の合計値（単位はベクレル/キログラム）

学校給食（提供食）検査を紹介！

学校の提供給食の放射性物質検査の様子を写真付きで紹介します。

問学校保健課☎7191－7376

検査対象となる学校では、毎日1食分を冷凍保存。金曜日の給食調理後に、検査機関が引き取ります。

検査機関に到着。これから検査です。

受け取った給食は、最初に「シンチレーション式サーベイメータ」で放射線量をチェック。その後、1検査材料（1学校1週間分）を、検査員がハンドミキサーで細かくし、2リットル分を検査容器に入れます。

検査材料は、液体に近づければ近づけるほど、検出下限値を下げることができます

「ゲルマニウム半導体検出器」に入れて分析します。

ガンマ線を放出する放射性物質の核種分析が可能な装置です

分析中の様子。放射線の検出状況をモニターで確認しています。

全部の検査終了後、分析結果の報告書が到着。市民の皆さんには、対象校から保護者への通知のほか、本紙・ホームページでお知らせしています。

◎さらに詳しい内容については、市のホームページで紹介しています

放射性物質の検査結果

■市内の農産物 N　問農政課☎7167－1143

[中央]春菊、カブ[南部]キャベツ、大根、トマト[手賀沼周辺]ホウレン草、小松菜、ネギ、キャベツ、サニーレタス、ネギ、山東菜、ワサビ菜	定量下限値未満（放セ134：15～30、放セ137：12～25）

（3月6日～22日検査分）

■給食食材 ゲ　問学校保健課☎7191－7376

牛乳など9品目	検出下限値未満（放セ134：10、放セ137：10※飲用牛乳は各1）

■小中学校（提供した給食1食分） ゲ
問学校保健課☎7191－7376

自校調理13校、給食センターの提供食	検出下限値未満（放セ134：0.8～1.5、放セ137：0.9～1.5）

■保育園（提供した給食1食分） ゲ
問保育課☎7167－1137

公立・私立合計7園の提供食	検出下限値未満（放セ134：0.6～1.3、放セ137：0.8～1.2）

（2月26日～3月10日検査分）

■表記の説明

N＝NaI（Tl）シンチレーションスペクトロメータによる検査

ゲ＝ゲルマニウム半導体検出器による検査

放セ＝放射性セシウム。数値は各下限値。単位はベクレル／キログラム

定量下限値＝ある分析方法を用いて化学物質を測定するとき、物質の量を証明できる最小値のこと

検出下限値＝使用する検査機器で検出できる最小値のこと

※検査機器が異なるため、下限値の設定が異なります。NaI（Tl）シンチレーションスペクトロメータ検査の場合、数値が検出された場合には精密な測定が可能な「ゲルマニウム半導体検出器」で再測定を行います

品目・学校名・検査方法などの詳しい内容は、市のホームページに掲載しています。私立幼稚園の検査結果も見ることができます

放射線キホンのキ！

放射線に対する理解を深める一助となることを目的に、放射線に関する基本的な情報を皆さんにお知らせします。

問放射線対策室☎7168－1036

第6回　いろいろな放射線測定器

放射線は、人間の五感で感じ取ることはできませんが、目的に合わせて適切な測定器を利用することで、その存在量を数値として確かめることができます。測定の目的には、①放射性物質の有無を調べる②空間（その場所）の放射線量を調べる③個人の被ばく線量を調べる、などがあります。

放射性物質の有無を調べる測定器には、代表的なものに「ガイガー・ミュラー・カウンター」があります。これは、放射線の数を測るのに適しており、物質に放射性物質が付着しているかどうかを調べる、つまり汚染の検査に適しています。食品中の放射性物質検査には、物質の種類を明確にして定量する必要があるので、「ゲルマニウム半導体検出器」や「NaI（Tl）シンチレーション検出器」がよく用いられています。空間の放射線量を調べる機器は、「エネルギー補償型のシンチレーション式サーベイメータ」が代表的です。場の放射線量率（単位：μSv/h）を測り、滞在時間をかければ、外部被ばくの総線量が計算できます。特定の個人の外部被ばく線量を直接測定するには、個人線量計が使えます。リアルタイム直読式の電子式ポケット線量計や、1カ月や3カ月間隔での積算線量を知るためのガラス線量計、OSL線量計などがあります。

放射線を測定するときには、対象や目的に適合した測定器を選ぶことが大切ですし、その特徴を十分に理解した上で、得られた数値を解釈することが重要になります。　（東京大学環境安全本部・飯本武志准教授監修）

ガイガー・ミュラー・カウンター

ゲルマニウム半導体検出器

シンチレーション式サーベイメータ

電子式ポケット線量計

※写真は文部科学省ホームページより（ゲルマニウム半導体検出器を除く）

次回は・・・第7回　「線量評価」の予定です

このページは、取り出して保存できます。柏市の放射線対策に関する情報は、市のホームページの「放射線関連情報」で随時お知らせしています